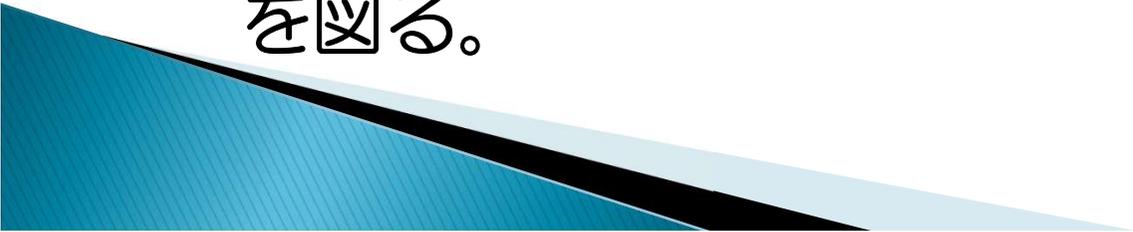


外国人看護師・介護福祉士 受入の現場から



医療法人茜会
人事課 小西 信幸

候補者を受け入れた経緯

- 少子高齢化が急速に進む中、将来的に労働力人口の不足が予測され、対策の一つとして外国からの労働者の受け入れが進む可能性が考えられた。
 - 外国から来られる方については、やる気のある人が多く、母国語に加え日本語を習得するなど優秀な人が多い。
 - 異文化コミュニケーションにより組織の活性化を図る。
- 

受入れ状況（看護師）

- ▶ 平成20年 尼) 2名⇒4年滞在後、帰国
- ▶ 平成21年 比) 4名⇒2～4年滞在後、帰国
- ▶ 平成21年 尼) 2名⇒2名合格、1名在職、
1名は6年滞在後、結婚のため帰国
- ▶ 平成25年 尼) 4名⇒1名合格、3名帰国
- ▶ 平成27年 越) 2名⇒2年目で2名合格
H30年1月1名帰国 4月1名帰国予定
- ▶ 平成28年 尼) 1名⇒候補生として在職中
- ▶ 平成29年 越) 1名⇒候補生として在職中
- ▶ 平成30年 尼) 2名、越) 2名マッチング

⇒現在看護師として働いているのは1名。

受入れ状況(介護福祉士)

- ▶ 平成21年 比) 3名⇒2名合格、2名とも7年在籍後
他施設へ転籍 1名は5年滞在後帰国。
- ▶ 平成21年 尼) 2名⇒1名は3年滞在後家庭の事情で帰国。
1名は5年滞在したが合格できず。
- ▶ 平成28年 尼) 平成25年度候補生1名再斡旋。
⇒今年度5年目、帰国の予定。
- ▶ 平成29年 尼) 1名⇒候補生として在職中。
- ▶ ⇒現時点で介護福祉士としての在籍はなし。

候補者の支援の実際

1. 【入国から入職前】

来日後の6か月間の日本語研修中、数回、研修センターからの呼びかけに応じ、開講式や研修、発表会への参加を行った。

⇒現地説明会に参加していない施設は、この時初めて候補者に会う。労働条件、施設の事、研修環境のことなど候補者は様々な不安を抱えているので、会って話ができる機会は重要。

2. 【候補者受け入れの準備】

①職員への周知

②住居

社員寮または借り上げ社宅を使用
(失敗談) シェアハウスは注意が必要。

③その他、用意したもの

- 職員に呼びかけを行い、日用品や家電を寄付してもらった。自転車をプレゼント等。
- 貸付金の準備。



3. 【入職後】初日から3か月目まで

①生活環境づくり

- 印鑑作成、住所変更、口座開設、携帯電話契約等。
- ゴミ出しについて、近所への挨拶回り、日用品購入場所の案内、家具・家電購入補助。

②就労環境づくり

- 施設内・職場オリエンテーション
- 研修への参加
- 契約内容、賃金や控除額の説明
- 歓迎会の開催



一週間のスケジュール

	勤務	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月	日勤													
火	日勤													
水	日勤													
木	日勤													
金	日勤													
土	公休													
日	公休													

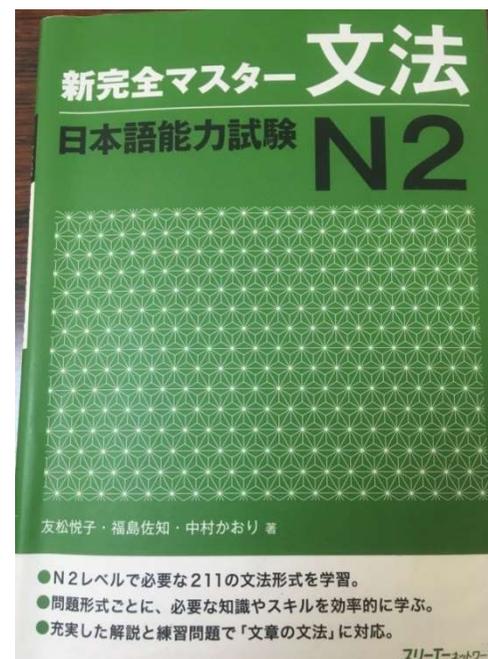
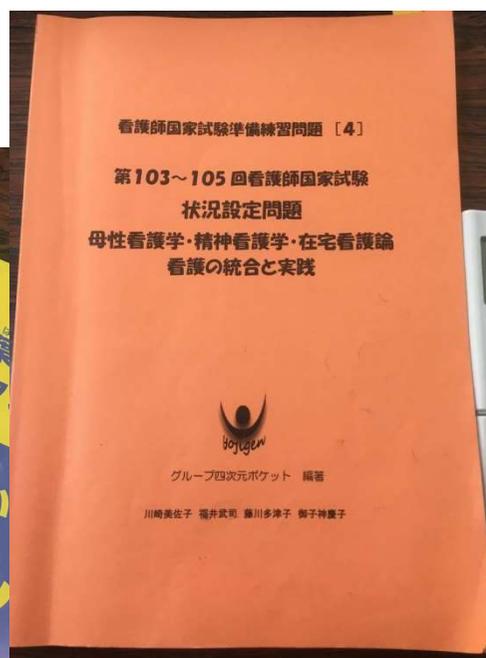
 仕事  自由時間  学習時間

1週間の平均的な学習時間 施設14時間



具体的な学習内容(言語)

- ①日本語の学習（月曜日、火曜日14:00～17:20）
- ・ JICWELSの教材や市販の教材を使用し、用語や文法について学ぶ。
（使用教材）



日本語教育での困難

- 同じことを言っているが、表現の仕方が違うもの
「申し送り」、「引き継ぎ」
- 擬態語の理解
「ひりひり」、「ちくちく」等
- 敬語、友達言葉、患者さんに使用する言葉の違い
- 似たような表現のちがひ
「希に」、「時々」

日本語教育での気づき

- 短い文章を使って話す練習をし、実際に使える状況を意識した。
- 会話は大事。声を出して話すことを重視。
- 複数の国の候補生を受け入れているところはいっしょに勉強するのもよい。
(日本語が共通言語となる)



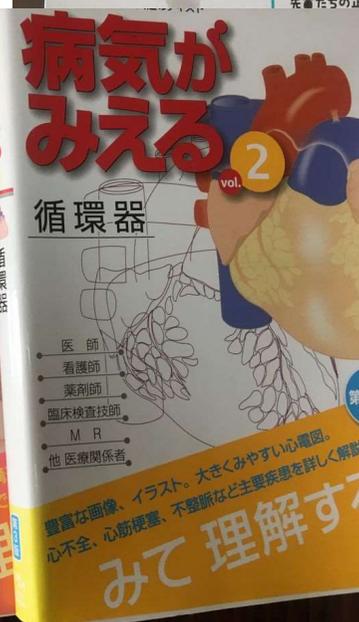
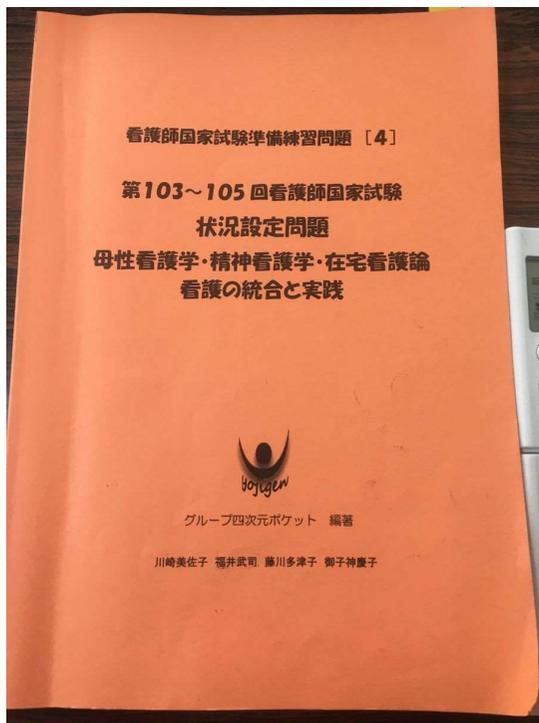
具体的な学習内容（試験）

②試験対策（水曜日14:00～17:20）

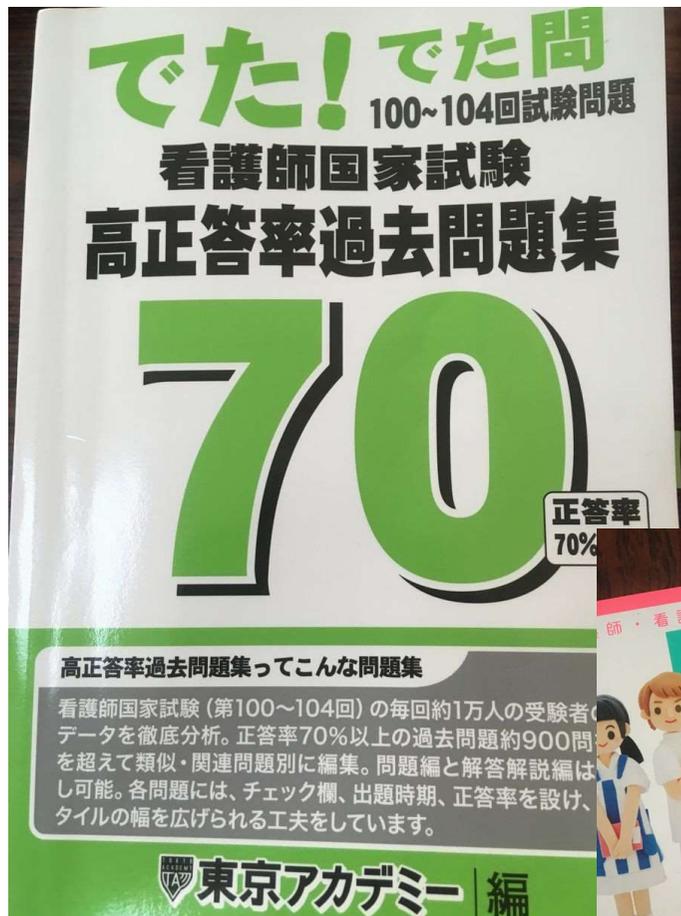
- JICWELSの教材や市販の教材を使用し、国家試験対策を行う。



国家試験対策使用教材①



国家試験対策使用教材②



国家試験対策での気づき

- レビューブックを参考書とし、過去問題集、必修問題集、模試のやり直しを行っている。
- PCで画像を見たり、「病気が見える」等の視覚教材は理解してもらいやすい。
- うまく説明ができないところは、日本語の担当に申し送りをしたり、情報をできるだけ共有する。
- 法律や、日本の制度は理解が難しい、根気よく何回も解説することが必要。

仕事上での課題

- 日本語を書くことはやはり苦手
⇒ 会話は問題ない人が多い。読むことも
おおむね大丈夫（専門用語、略語は注意）
- 宗教上の配慮
⇒ お祈りの時間や、場所が必要な人も。
- 短い言葉での指示、略語の聞き取り
⇒ 行間を読んだりすることは日本人でも難しい。
できるだけ具体的な指示、平易な言葉で。



接し方についての気づき

- 「わかりました」に注意というけれど…
⇒やはり忙しそうにしているのに何度も聞くのもという遠慮がある。特に他の人がいる中で自分だけ訊ねるのは抵抗がある。1対1であれば聞いてくれることもある。



業務終わりに話をする時間
をとったり、交換日記も有効

聞ける環境を整える

支援の円滑化のために

- ・受け入れのハードルは初期のころよりかなり下がってる。支援の体制も充実してきた。
しかし、とはいっても日本人の研修とは違う。研修担当者の負担も大きい。
⇒ 全体でのフォローと理解を
- ・現場職員との摩擦で主なものは、業務時間中に学習等で現場を離れることに対する不満。
⇒ 学習が必要であることを理解してもらう。
将来的には自分たちの助けとなる。

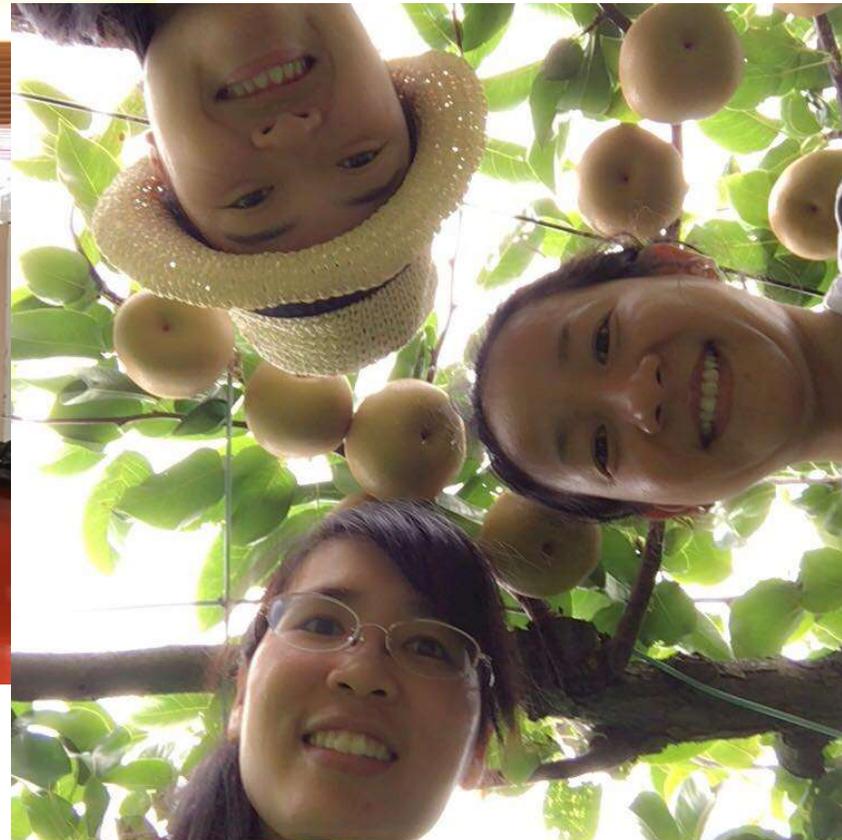
職場に馴染んでももらうため①

- 交流サークルの立上げ、交流イベント実施

ボーリング大会



梨狩り



職場に馴染んでももらうため②

- 職場でのイベント参加参加



受入れて良かったこと



- 高齢者に優しい人が多く利用者や家族には好評
- 教えるために職員も学ぶ必要があり、意識の向上に繋がっている。

今後の課題

○いかに定着率をあげていくか

- 施設に魅力・愛着を感じるようにする努力が必要
- 日本人にもある結婚や家族問題にまつわる退職については対応困難。
 - ⇒家族を呼び寄せるとしても労働の制限や慣れない土地での生活等でうまくいかない。
 - ⇒定期的に帰国する機会を作り、離れて暮らすことへの配慮を行う。

ご清聴ありがとうございました

